

三重大学附属図書館研究開発室 平成27年度事業報告

I. 事業の概要

1. 附属図書館及び環境・情報科学館の学習支援環境の整備・支援

この事業計画は、①フォトボイス法を用いて、学生の教室外学習の実態を明らかにすること、②フォーカス・グループ・インタビュー（学生懇談会）によって学生の利用実態を明らかにすること、③国外の先進事例の調査を行い、ラーニングコモンズと授業を含む学習活動の関係、ラーニングコモンズの評価法についての理解を深めることである。

①については、工学部建築学科の「建築計画Ⅰ」（1年次・必修科目）の受講生（51名）及び「建築経営工学Ⅱ」（3年次・選択科目）の受講生（24名）を対象としてフォトボイス調査を実施した。これによって、学生の教室外学習の実態に関するデータを得ることができた。また、「建築計画Ⅰ」の受講生のうち、4名を対象として聴き取り調査を行い、教室外学習についての詳細なデータを得た。フォトボイス調査及び事後インタビューによって得たデータについては、現在、整理と分析を進めている。

②のフォーカス・グループ・インタビューについては、附属図書館の学生職員を対象として実施する予定であったが、実施時期を検討する中で2015年度内の実施を見送り、2016年度の実施計画を立てた。

③については準備を進めていたが、科学研究費による出張計画と本事業による調査計画の調整ができず、実施を見送った。

（長澤・加藤・毛利）

2. 学術情報リテラシー支援

この事業計画は、アクティブラーニングを導入した専門教育科目にカスタマイズした情報リテラシー教育をデザインし、その成果を学生による学習の振り返りの分析や学生が提出した課題によって明らかにすることである。

工学部建築学科の「建築計画Ⅰ」及び「建築経営工学Ⅱ」（いずれも上記参照）を対象として、授業科目の担当教員とティーチング・アシスタント、図書館員、研究開発室の専門教員が打ち合わせを重ねて、上記の授業科目にカスタマイズした情報リテラシー教育をデザインし実施した。その成果を明らかにするために、現在、学生が提出した学習の振り返りと最終レポートの分析作業を進めているところである。

（長澤・加藤・毛利）

3. 図書館サービス向上のための大規模図書館業務データ分析

昨年度に引き続き、大学図書館が記録している大規模な入館および貸出データに基づく利用パターンの分析を行った。本年度は、

- 1) 三重大学附属図書館の平成 25 年度および平成 26 年度のデータの分析
- 2) 九州大学附属図書館の平成 25 年度の予備的分析を行った。

主な結果として、1)入館利用に関しては、学部生および一部の学生が、入館回数全体の大部分を占め、学年と入館回数とは比例しない、2)ほとんどの学生は入館しているが（8割から9割）、学部生の入館率は学習スタイルに影響される、3)文系学部・研究科と理系学部・研究科とで大学院生に顕著な差がある、4)図書館利用（入館・貸出）には継続性があり、学年に関わらず前年度の頻度を強く反映していることなどがわかった。以上の結果について、二件の学会発表を行った。

(三根)

4. 附属図書館所蔵資料に関する調査研究

三重大学附属図書館所蔵の和古書の調査と整理を行った。具体的には、未整理図書の OPAC への登録のため、学術アドバイザーの中京大学中川豊准教授とともに、和古書の実物をみてデータベースの作成を実施した。資料調査の成果として「本草学から博物学へ」展（2015.12.4～2016.2.4）と「民法のこれまで」展（2015.6.11～2015.8.5）を開催した。「大学教育改革フォーラム in 東海 2016」分科会「学生の学びと大学図書館における展示活動」（2016.3.12）において「図書館における古典籍の展示活動を通じた教育実践報告」として、図書館における展示教育の報告を行った。

(吉丸・中川)

5. 附属図書館の職員のためのスタッフ・ディベロップメント

この事業計画は、図書館職員への聴き取り調査や学生懇談会で明らかになったニーズをもとに、必要なセミナーやワークショップの研修を実施し、その中で課題などを検討することである。

2014 年度に実施した利用サービスの担当者への聴き取り調査及び学生懇談会によって得られたデータを整理して、必要になる SD のテーマを検討した。そして、附属図書館の全職員を対象として、9月に「ラーニングコモンズによる学習支援環境の整備」を、2月に「レファレンス・サービス：レファレンスのプロセスとツール」の研修会を実施した。

(長澤)

Ⅱ. 室員の活動

■【地域貢献】

- ・長澤多代 桑名市教育委員会 図書館協議会委員（副会長）

■【図書等】

- ・長澤多代「問題解決や課題探究のための情報リテラシー教育」, 溝上慎一・成田秀夫編『アクティブラーニングとしての PBL と探究的な学習』東信堂, 2016. 3, p. 24-45. (アクティブラーニングシリーズ, 2) .
- ・山田邦雅, 土岐智賀子, 長谷川詩織, 安田淳一郎, 長澤多代「アクティブラーニング授業の構成: 学生の学び合いをどう活かすか」〔第 37 回大会, ラウンドテーブル 4〕『大学教育学会誌』Vol. 37, No. 2, 2015, p. 41-44.
- ・長澤多代「大学図書館の学習支援」〔講義資料〕『平成 27 年度大学図書館職員長期研修』筑波大学, 2015, p. 238-254.

■【論文】

- ・長澤多代「大学教育における教員と図書館員の連携を促す教員に対する直接的な支援: アーラム・カレッジのケース・スタディをもとに」〔論文〕『図書館界』Vol. 67, No. 4, 2015, p. 228-243.

■【外部資金による研究】

- ・長澤多代「大学教育の質保証を視野に入れた図書館員による教員との連携構築のための戦略」科学研究費補助金（基盤研究 C）2015 年度～2017 年度.
- ・長澤多代. 大学教育学会・課題研究「アクティブラーニングの効果検証」（研究代表者: 京都大学高等教育研究開発推進センター 溝上慎一）（2015 年度～2017 年度）

■【研究発表（口頭発表）】

- ・長澤多代「フォトボイスを活用したアクティブラーニング型授業の教室外学修の実態」〔シンポジウムⅢ（話題提供者）〕／溝上慎一, 三保紀裕, 山田邦雅, 長澤多代「アクティブラーニングの効果検証」2015 年度課題研究集会, 大学教育学会, 岩手大学, 2015. 11. 29.
- ・山田邦雅, 土岐智賀子, 長谷川詩織, 安田淳一郎, 長澤多代, 徳井美智代「アクティブラーニング授業の構成: 学生の学び合いをどう活かすか」〔ラウンドテーブル〕大学教育学会第 37 回大会, 長崎大学, 2015. 6. 6.
- ・吉丸雄哉「図書館における古典籍の展示活動を通じた教育実践報告」〔分科会「学生の学びと大学図書館における展示活動」〕, 大学教育改革フォーラム in 東海 2016, 愛知大学, 2016. 3. 12.
- ・三根慎二, 上田修一. 大学生の大学図書館の利用はどのように変化するのか. 2015 年度三田図書館・情報学会研究集会, 慶應義塾大学, 2015/11/14.
- ・三根慎二, 上田修一. 誰がどのくらい大学図書館を利用しているのか. 2015 年度日本図書館情報学会春季研究集会. 京都ノートルダム女子大学, 2015/5/30.

■【招待講演】

- ・長澤多代「初年次導入科目の授業デザインと情報リテラシー教育: 三重大大学のスタートアップセミナー

一における教員と図書館員の協働」〔基調講演〕新潟大学第36回全学FD「学生・教員・図書館職員の協働による学習支援を考える：初年次段階の情報リテラシー教育を中心に」新潟大学，2016.2.19.〔発表資料〕

- ・長澤多代「大学図書館における学習支援」〔講演〕平成27年度山口県大学図書館協議会研修会，山口大学，2016.2.12.
- ・長澤多代「アクティブラーニングや探究的な学習のための図書館機能の強化」桐蔭学園の関係者による図書館の訪問調査，三重大学，2015.12.25.
- ・長澤多代「図書館における学修支援の可能性」〔基調講演〕山口大学大学教育機構・大学教育センター／山口大学図書館，第7回スチューデント・リーダー・プログラム（SLP）「図書館における学修支援について考えよう！」，山口大学，2015.12.4.
- ・長澤多代「大学図書館が実施する学習支援サービス：情報リテラシー教育を中心として」〔講演〕平成27年度石川県大学図書館協議会・特別研修会，北陸先端科学技術大学院大学，2015.11.25.
- ・長澤多代「教員と図書館員が連携する学術情報リテラシー教育」〔講義〕国立情報学研究所，平成27年度学術情報リテラシー教育担当者研修，国立情報学研究所，2015.11.20.〔講義資料〕
- ・長澤多代「三重大学の事例から考えるラーニングコモンズの設計と運用」〔講演〕愛知教育大学附属図書館，平成27年度愛知教育大学アクティブラーニングセミナー，愛知教育大学，2015.10.21.
- ・長澤多代「大学図書館の学習支援」〔研修（講師）〕筑波大学附属図書館，平成27年度大学図書館職員長期研修，筑波大学春日キャンパス，2015.7.15.〔関連情報〕

■【その他】

- ・長澤多代「レファレンス・サービス：レファレンスのプロセスとツール」平成27年度第3回三重大学附属図書館SD，2016.2.10./2.17.
- ・三重大学附属図書館「アクティブラーニングの基盤としての附属図書館・ラーニングコモンズの活用」生物資源学部FD，三重大学，2015.12.9.
- ・柴田佳寿江，長澤多代「図書館の情報資源やサービスを活用した問題解決」「建築経営工学Ⅱ」（工学部建築学科），三重大学，2015.10.15.
- ・柴田佳寿江，長澤多代「図書館の情報資源やサービスを活用した問題解決」「建築計画Ⅰ」（工学部建築学科），三重大学，2015.10.15.
- ・長澤多代「ラーニングコモンズによる学習支援環境の整備」平成27年度第2回三重大学附属図書館SD，2015.9.1.
- ・三根慎二. 電子ジャーナル利用の最近の動向 :SCREAL 2014 調査から. 三重大学附属図書館 SD. 2015/8/31.

Ⅲ. 組織

	氏名	任期	所属・職名	担当事業
室長	加納 哲	H27. 4. 1～H29. 3. 31	理事（情報・環境担当）・副学 長	
専任室員	長澤 多代	H25. 7. 1～H30. 6. 30	附属図書館研究開発室・准教授	1, 2, 5
兼務室員	吉丸 雄哉	H27. 4. 1～H29. 3. 31	人文学部・准教授	4
兼務室員	三根 慎二	H26. 4. 1～H28. 3. 31	人文学部・講師	3
協力大学教員	加藤 彰一	H27. 4. 1～H28. 3. 31	工学研究科・教授	1, 2
協力大学教員	毛利 志保	H27. 4. 1～H28. 3. 31	工学研究科・助教	1, 2
学術アドバイザー	中川 豊	H27. 4. 1～H28. 3. 31	中京大学	4
客員教授	石原 義剛	H27. 4. 1～H28. 3. 31	海の博物館館長	博学連携
客員教授	川口 祐二	H27. 4. 1～H28. 3. 31	エッセイスト	博学連携
客員教授	吉村 利男	H27. 4. 1～H28. 3. 31	三重県史編さん班編集委員	博学連携

事業名：

1. 附属図書館及び環境・情報科学館の学習支援環境の整備・支援
2. 学術情報リテラシー支援
3. 図書館サービス向上のための大規模図書館業務データ分析
4. 附属図書館所蔵資料に関する調査研究
5. 附属図書館の職員のためのスタッフ・ディベロップメント